

このキャストに注目!

Mark Steven Doss

マーク・S・ドス (ジェルモン役)

特別インタビュー

インタビュー岸 純信 (オペラ研究家)

佐渡オペラの楽しみの一つは、
トロポリタン・オペラ、ウィーン国立歌劇場など
世界の第一線で活躍する実力派歌手に会えること。
今回惜へいが実現したジェルモン役のマーク・S・ドス氏も、
世界の主要歌劇場に出演を重ね、素晴らしいソリストです。
今回記者会見での来日時、ドス氏のインタビューを敢行!
これまでのキャリアについて、オペラへの想い、
役柄について伺いました。



ジェルモンは種の敵役ですが、
歌の面でもエキサイティングな
人物像であることは間違いないですね。



舞台映える188cmの身長

抜群の声量と思われた容容、磨き上げた
演技力を武器に、ステージで圧倒的な存在感を
放つマーク・S・ドス。米国クワイヴンズ生まれの
バス・バリトンであり、ミラノスカラ座やウィーン
国立歌劇場など欧州での出演も数多いヴェテランの彼が、
この7月には西宮で『椿姫』の父親ジェルモンを演じる。この
「福音をしっかりと重ねた上で舞台に立ちたい、
いつもそう願っています。オペラに出演する喜びは
いろいろな要素を持つ人々と、時間をかけて、
一緒に作業できること」に尽きます。その中で
採られていると、自分も普段以上の力を発揮でき
たと実感しています。だから、兵庫県立芸術文化センターの
『椿姫』に出演できることも、とても嬉しく思っています。
佐渡祭などはこれで3度目の仕事になります。イタリアのトリノ歌劇場で
『カルメン』と『ビーツー・グライムズ』をこねた時
から、マエストロの指揮がいつも自然な共感を
覚えています。『椿姫』でも良い成果を出せるよう、
励みたいと思っています」

ヴェルディのオペラでは、『アイダ』のア
メナゴロや『ナブッコ』の主人公といった
強烈な役が多かった。『椿姫』の父親ジェル
モンのキャラクターについてはどのように感じ
ているのだろうか

「この役は、実は今回が初めてなんです。第2幕の名アリア(プロヴァンスの海と鐘)は役
コンサートでたびたび歌っていますが、役として演じる
のはこれが初めて。今は歌の練習を積んでいる最中
ですが、ジェルモンのパートには退屈するところが
全くありません。音楽には美しくセンチメンタルな響
きがたくさんあります。役の心にも共鳴できる点は
多いです」

これから、ドス氏が建てたこと、父親ジェルモン

の胸中について。

「『椿姫』はパリのお話ですが、ヴェルディの音楽にはイタリア人の家族愛の在り方が強く
滲んでいると思います。私はイタリアのヴェルディ
声楽コンクールで優勝してオペラ界に本格的に参
入しましたが、この7月には西宮で『椿姫』の父親
ジェルモンを演じる。この「福音をしっかりと重
ねた上で舞台に立ちたい、いつもそう願っています。
オペラに出演する喜びはいろいろな要素を持つ人
々と、時間をかけて、一緒に作業できること」に
尽きます。その中で採られていると、自分も平
常以上の力を発揮できたと実感しています。だから、
兵庫県立芸術文化センターの『椿姫』に出演でき
ることも、とても嬉しく思っています。佐渡祭など
はこれで3度目の仕事になります。イタリアのトリ
ノ歌劇場で『カルメン』と『ビーツー・グライムズ』
をこねた時から、マエストロの指揮がいつも自然
な共感を覚えています。『椿姫』でも良い成果を出
せるよう、励みたいと思っています」

「自分の出発点はベルカント・オペラです。唄
い出しの頃、あのジョーン・サザランドさんとド
ニゼットーの『アンナ・ボレーナ』で共演しまし
た。サザランドさんが私の歌声を初めて聴いた途
端、「ふうん?とため息を漏らしたんです。どうした
んだろうか?と心配になった。真面目なあの人は
彼女が出した合格点の証!」と言ってきて、それは
本当にたぐいありません(笑)。その後、声の成
熟に合わせて役柄を増やして、ウーグナーの『さ
まよえるオランダ人』やR.シュ

ラウスの『サロメ』のヨカネンもよく歌うよう
になりましたが、(オランダ人)の音楽には
イタリア的な部分も多すぎますね。『椿姫』
ではヒロインのヴィオレッタは勿論、ジェル
モンのパートもベルカントのテクニックをた
びたび要求されます。ヴィオレッタとの長大な
二重唱では、歌い出しに感情を強く抑え
る技術も必要になってきます。ジェルモンは
一種の敵役ですが、歌の面でもエキサイ
ティングな人物像であることは間違いない
ですね」

旅先各地を飛び回る日々の中で、プライ
ヴेटでは家族との時間を大切にしています。
時間があれば、二人の子供と一緒にテ
ニスや卓球を楽しむのだという。このインタ
ビューが始まる前も、「携帯卓球セット」なる
ものがバッグから取り出して見せてくれた。

「少年時代からスポーツが大好きで、それが
もう一つ好きなのは、歌です。それが『規
律』なんです。昔から団体生活への慣れが
強くて、軍学校に入学したと聞いた時期が
長かったです。でも、結局は大学で社会学を
勉強する傍ら、歌を学んで今に至ります。
しかしながら、最初にお話したように、
オペラ界の仕事や他の人の声や目録が
大いに要求されるもので、その個性に合
っていない。日本ではスラウスの会
合で初めて訪れた。驚かして、とぶか
らなことに、南米なんかぶつかり放題
だから(笑)。そうして、日本の落ち着
いた良さを、今回の『椿姫』の現場でも
実感できています」



旅の友は携帯卓球セット!

マーク・S・ドス、188cm、
イタリア・クワイヴンズ生まれ、ミラノスカラ座、ウィーン国立歌劇場など
世界の第一線で活躍する実力派歌手に会えること。今回惜へいが実現した
ジェルモン役のマーク・S・ドス氏も、世界の主要歌劇場に出演を重ね、
素晴らしいソリストです。今回記者会見での来日時、ドス氏のインタビュー
を敢行!これまでのキャリアについて、オペラへの想い、役柄について
伺いました。